

センターだより

認知症医療センターには、一般市民、専門職の方々へ認知症に関する情報を発信し、認知症の普及・啓発を促進するという重要な役割があります。センター便りとして定期的に情報を発信していきます

特集 その他の認知症

■ はじめに

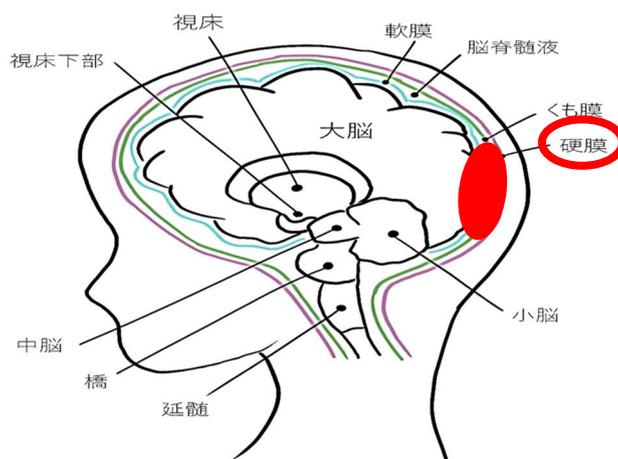
認知症の原因となる病気は数多くありますが、中には頭の外傷や代謝疾患などの身体の病気、精神疾患、薬の影響などが原因で認知症のような症状が現れていることがあります。

これらの中には早期に発見して治療をすることで改善する可能性がある、「治る認知症」と言われるものが含まれており、代表的なものとして下記のようなものがあります。

■ 慢性硬膜下血種

転んで頭をぶつけるなど、頭の外傷によって脳の表面に血腫ができ、脳が圧迫される病気です。通常は頭をぶつけてから3週間から3ヶ月くらい経ってから発症しますが、高齢者では頭をぶつけたことを覚えていないことがよくあります。

60歳以上の高齢者や多量の飲酒習慣のある男性に起こりやすいといわれています。症状として、頭痛、手足の麻痺、歩行の障害、認知機能の障害などが現われます。認知機能の障害としては、注意力や記憶の障害、意欲の低下、見当識の障害（時間や今いる場所がわからなくなる）といったものを認めます。治療では頭の中の血腫を取り除く手術を行います。



■ 正常圧水頭症

頭の中で、脳や脊髄の周りは脳脊髄液という液体で満たされています。水頭症というのは、脳脊髄液の吸収や流れが悪くなることで過剰に溜まり、脳が圧迫される病気をいいます。

正常圧水頭症は60歳以上の高齢者にみられます。症状としては、歩行の障害、認知機能の障害、尿失禁の3つが特徴的で、ゆっくりと進行します。認知機能の障害としては、無気力、注意力の低下、物事を処理するのが遅くなる、段取りが悪くなる（遂行機能障害）、など前頭葉機能の低下症状を認めます。

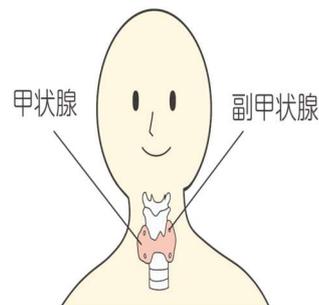
治療では、過剰な脳脊髄液を体内の他の部位に逃がすシャント手術を行います。歩行や認知機能が改善する可能性がありますが、重症例や治療が遅れた場合は手術の効果が期待しにくいという報告があります。



■ 甲状腺機能低下症

甲状腺は、首の喉ぼとけのすぐ下にある小さな臓器で、甲状腺ホルモンを作っています。これには細胞の新陳代謝を高めたり、交感神経を刺激する作用があります。

甲状腺機能低下症は、甲状腺の働きが低下し、甲状腺ホルモンの生産が減る病気をいいます。身体症状として体のむくみ、心不全、脱毛といった症状を認めますが、認知機能にも影響し、注意力の低下、見当識障害（時間や今いる場所がわからない）、記憶の障害、動作・思考の緩慢（動作や考えるのが遅くなる）、無気力で眠りがちになる、遂行機能障害（段取りよく物事を進められない）、といった症状が現れます。

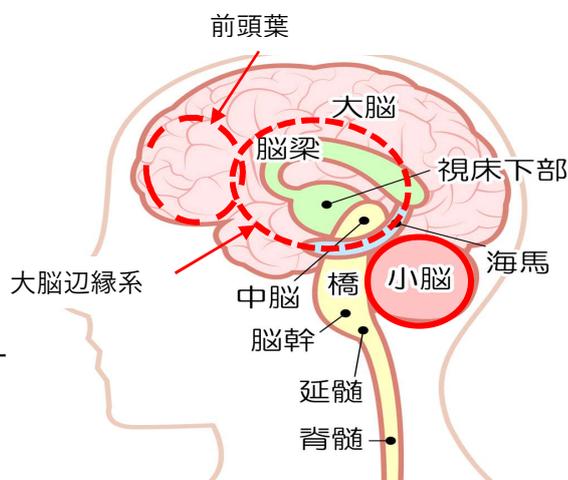


■ アルコール依存症

アルコール依存症のように、問題のある過剰な飲酒は脳にダメージを与えます。脳の部位としては前頭葉、辺縁系（情動、意欲、記憶などに関連している部位）、小脳（主に運動の制御に関わる部位）の3つがダメージを受けやすく、萎縮や血流低下をきたします。そして、その影響として認知機能の障害、行動・性格傾向の変化、歩行とバランスの障害が起こります。

急性期の治療では、飲酒を中止後、ビタミン B1 やアルコールの離脱症状を予防する薬を投与します。3~4 週間の禁酒により神経機能や行動の障害は改善し、ほとんどの認知機能障害は 7 年ほどで回復するといわれています。

その一方で、アルコール依存症はときに合併症としてビタミン B1 の欠乏を認め、治療が遅れるとコルサコフ症候群という後遺症を残すことがあります。コルサコフ症候群では、記憶障害（新しいことを記憶できない”前向き健忘”と、いくらか過去の記憶を失う”逆行性健忘”）を認め、重度の場合はほんの数秒しか記憶することができなくなります。



■ うつ病



高齢者のうつ病の一部では、認知機能の低下を認めることがあります。記憶力、注意力、物事の処理速度、遂行機能（物事を段取りよく進める認知機能）などが低下し、認知症のようにみえることから、うつ病性仮性認知症とよばれます。うつ病性仮性認知症では、うつ病が回復したあとでも軽度の記憶力、注意力、遂行機能などの認知機能の低下がみられ、認知機能の低下を伴わなかったうつ病の患者さんと比べて認知症に移行する可能性が高いといわれています。このことから一部のうつ病は、認知症の前駆症状や部分症状と考えられています。

うつ病は海馬（記憶に関わる脳の部位）の萎縮と関連しているとの報告があり、原因として、慢性的なストレスや、それによる長期間のグル

コ（糖質）コルチコイドというストレスホルモンの増加が、①神経の栄養になる脳由来神経栄養因子（brain-derived neurotrophic factor; BDNF）の低下や、②海馬の神経新生（海馬で新しく神経ができること）の減少、③アミロイドβ（アルツハイマー型認知症で蓄積する異常タンパクの一つ）の毒性の増強、につながることが挙げられています。

■ 薬剤による認知機能障害

高齢者では服用薬の種類が増える傾向があります。また、加齢とともに肝臓や腎臓の機能が衰えるため薬の副作用が起こりやすく、副作用の一つとして認知機能の障害が比較的好く起こります（服用薬が6種類以上で、副作用が起こりやすい状態をポリファーマシーといいます）。

認知機能の障害を起こしやすいタイプの薬が数多く知られています。普段服用している薬が認知機能に悪影響を及ぼしている可能性が高い場合には、その薬を中止することが原則ですが、元々治療していた病気が悪化する可能性があるため、薬の減量や他の薬への変更で対応することもあります。



(認知症医療センター長 井ノ口)



【認知症啓発のための 第1回市民向け&専門職向けセミナー開催のお知らせ】

【開催日時】 令和6年3月16日（土）13:00～

【会場】 ユメニティのおがた 小ホール

【メインテーマ】

認知症になっても住み慣れた街で安心して暮らし続けていくために必要なこととは
～重症化を防ぐために～

【プログラム】

1. 記念講演

「認知症の人が見ている世界」～認知症の人への関わり方の基本を学ぶ～

講師 株式会社 Re 学 代表取締役 川畑 智 先生

2. シンポジウム「認知症になっても住み慣れた街で暮らし続けていくために必要なこととは」～重症化を防ぐために～

シンポジスト

認知症サポート医の立場から: みずほ内科・レディースクリニック 院長 輪田 順一先生

ケアマネジャーの立場から: きんもくせいケアプランサービス管理者 豊田 裕二さん

家族の立場から 認知症の人と家族の会 代表 宗廣 壽美子さん

(座長) 医療法人福翠会高山病院 院長 高山 克彦

(コメンテーター) 株式会社 Re 学 代表取締役 川畑 智 先生

【参加申し込み・お問い合わせ先】

当院のホームページをご覧ください
か下記の認知症医療センター専用電話へ直接お申込みください

【編集・発行】

医療法人 福翠会 高山病院 福岡県認知症医療センター

〒822-0007 福岡県直方市下境 3910-50

TEL 0949-23-0520(専用電話) FAX 0949-24-0838

E-Mail takayamaninchis@gmail.com URL <https://nogata-fukusuikai.jp/>